

科目名	産業環境保健学概論	code number : OEH 201	必修	1 単位
-----	-----------	--------------------------	----	------

科目責任者	原 邦夫 教授						
配当年次	1年次	配当学期	前期(前半)	曜日・時限	火曜 1時限	授業方法	講義

1. 授業の概要

産業保健の対象は5千万労働者であり、公衆衛生の個別領域としては最も大きな集団を対象とすることになる。50人以上の事業所全てに義務づけられた産業医制度をはじめ各種の職域健診制度により、産業保健学は、それを専門としない者も含め多くの医師や公衆衛生専門職にとって学ぶ必要のある領域となった。そこで必ずしも産業保健を専門としない公衆衛生の実務家のために、基本的な産業保健の制度、法、組織等の概要を学ぶ必要がある。また、環境保健学とは、様々な環境中の有害要因による健康影響を制御して健康を保つことを目的としている。環境問題とそのマネジメントを俯瞰しつつ、環境からの有害影響別に対策とともに詳しく理解する必要がある。

後期の選択科目である産業保健学および環境保健学の基礎的部分について、各担当教官が包括的に解説する。より専門的・実践的には、夏期および後期開講の選択科目の「産業保健学」、「環境保健学」および「産業環境保健学実習」で学ぶ。

2. 授業の到達目標

【一般目標 (GIO)】

1. 産業環境保健分野の第一線級の経験を聞くことを通じ、産業保健・環境保健を専門としない公衆衛生専門職が様々な形で関わることの多い産業保健・環境保健について、包括的認識を持って解説できる。

【行動目標 (SBO)】

1. 職場および環境中の有害要因と健康障害の関係を理解し、予防対策が検討できる。
2. 産業保健の5管理: 作業環境管理、作業管理、健康管理、教育管理、総括管理を理解し、各管理の考え方を活用できる。
3. リスクアセスメントの手順を理解し、基準等のあるリスク因子の管理方法について検討できる。
4. 環境中のいくつかの有害リスク要因を測定することを通じ、定量的な管理方法について検討できる。

- (1) レポート(80%)
- (2) 議論への参加(20%)

4. 教科書・テキスト

・毎回授業開始時に資料として配布する。

5. 参考書

・中央労働災害防止協会. 労働衛生のしおり、中央労働災害防止協会、2016.

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・中央労働災害防止協会の『労働衛生のしおり』の第III章・最近の労働衛生対策の展開の部分に事前に目を通しておく。
- ・前回までに学んだ5管理からなる産業保健の内容を復習し、当日の講義のキーワードについての予習が望まれる。
- ・当該期間に8時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・レポートに対し、講義の中あるいは個別に解説等のフィードバックを行い、再提出を求める場合がある。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

産業環境保健学概論

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	4/18(火)	1	矢野 榮二 教授	職場・環境中の有害要因による健康障害 健康概念、健康障害と予防対策
2	4/25(火)	1	谷原 真一 教授	総括管理1(企業規模別の管理体制) 産業医による産業保健1
3	5/2(火)	1	原 邦夫 教授	労働安全衛生法令と3管理、作業環境管理(作業環境測定・評価)
4	5/9(火)	1	原 邦夫 教授	環境保健学(公害対策、環境リスク学)
5	5/16(火)	1	福田 吉治 教授	健康管理 健康診断、健康保持増進、快適職場
6	5/23(火)	1	中原 浩彦 講師(非)	作業管理と人間工学
7	5/30(火)	1	東川 麻子 講師(非)	総括管理2(中小企業の産業保健活動の立ち上げ方) 産業医による産業保健2
8	6/6(火)	1	原 邦夫 教授 中原 浩彦 講師(非)	環境測定(簡易測定器による測定と評価)

科目名	産業保健学	code number : OEH 221	選択	2 単位
-----	-------	--------------------------	----	------

科目責任者	原 邦夫 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	後期(前半)	曜日・時限	月曜 1,2時限	授業方法	講義・演習

1. 授業の概要

労働を取り巻く環境に対する社会の要求がより厳しくなるなか、事業者の期待に応えられるだけの高い能力を持った産業医・産業看護職・産業衛生技術職等の必要性が高まっている一方で、特に実務能力に関して高度な教育・訓練を受ける機会を提供できる機関は絶対的に不足している。そこでこうした社会的要請に応えられるだけの実践的な専門知識を持った産業医・産業看護職・産業衛生技術職を育成するためのカリキュラムを提供する。ケースを踏まえた議論も行い、労働衛生関連法規並びに国の指針・通達についての専門的な知識と理解、労働衛生管理体制の確立、労働衛生マネジメントシステムの構築と運用、有害業務の自主的な管理の方法、健診の実施と事後措置、職場改善を含めた作業管理実務、より効果的な衛生教育の実施のための方法等を学ぶ。選任産業医のみならず専属産業医としてはもちろん、労働衛生コンサルタントとしても活躍できる人材、あるいは自立した産業保健活動ができる高度な産業看護職、産業衛生技術職としての人材育成を目指す。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1. 産業医・産業看護職・産業衛生技術職など産業保健(労働衛生)を専門とする者が、当該領域の経験や知識を体系化し、より高度な専門実務能力を身につけ、産業現場の問題を解決できる。

【行動目標(SBO)】

1. 労働基準法・労働安全衛生法を中心とする労働法の重要な考え方を理解し、活用できる。
2. 産業保健の5管理:作業環境管理、作業管理、健康管理、教育管理、総括管理を理解し、管理方法を適用できる。
3. 健康診断結果等のデータを解析し、職場の産業保健活動に活用できる。
4. 産業医、産業看護職、産業衛生技術職等の職務を理解し、共同して産業保健活動ができる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1) レポート(60%)
- (2) 発表(30%)
- (3) 議論への参加(10%)

4. 教科書・テキスト

・毎回授業開始時に資料として配布する。

5. 参考書

・中央労働災害防止協会. 労働衛生のしおり、中央労働災害防止協会、2017.

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・中央労働災害防止協会の『労働衛生のしおり』を通読する。
- ・前回までに学んだ5管理からなる産業保健の内容を復習し、当日の講義のキーワードについての予習が望まれる。
- ・当該期間に15時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・講義とグループワーク、討論を適宜組み合わせる。
- ・レポートに対し、講義の中あるいは個別に解説等のフィードバックを行い、再提出を求める場合がある。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

産業保健学

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	9/22(金)	1	原 邦夫 教授	産業保健学とは何か ・安全配慮義務／労働安全衛生法令と5管理／産業保健専門職の役割
2	9/22(金)	2	谷原 真一 教授	総括管理 労働衛生スタッフとの連携
3	9/25(月)	1	谷原 真一 教授	職場のデータ管理・分析 (健康診断データなどの具体的なデータの取り扱い)
4	9/25(月)	2	谷原 真一 教授	レセプト分析の基礎と応用1
5	10/2(月)	1	谷原 真一 教授	レセプト分析の基礎と応用2
6	10/2(月)	2	谷原 真一 教授	健康管理1 (休職者復職支援)
7	10/13(金)	1	小木 和孝 教授(客)	産業保健の世界動向
8	10/13(金)	2	吉川 徹 准教授(客)	自主対応型労働安全衛生活動 人間工学を利用したメンタルヘルスの一次予防対策の「職場ドック」方法による職場の良好事例に学ぶ取り組み
9	10/16(月)	1	福田 吉治 教授	健康管理2
10	10/16(月)	2	福田 吉治 教授	職場巡視・安全衛生委員会
11	10/23(月)	1	福田 吉治 教授	メンタルヘルス対策
12	10/23(月)	2	福田 吉治 教授	各種専門職の役割 (産業保健専門職のマネジメント能力、産業看護職の役割)
13	10/30(月)	1	原 邦夫 教授	労働安全衛生法令の体系 作業環境管理(労働衛生工学)
14	10/30(月)	2	中原 浩彦 講師(非)	作業管理
15	11/6(月)	1	原 邦夫 教授	労働安全衛生マネジメントシステムとリスク判定 ・リスクの概念／・判定指標／・許容濃度、管理濃度など様々な基準

科目名	環境保健学	code number : OEH 211	選択	2 単位
-----	-------	--------------------------	----	------

科目責任者	原 邦夫 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	後期	曜日・時限	水曜 1時限	授業方法	講義・演習

1. 授業の概要

人は様々な環境からの影響を制御して健康を保っている。とくに産業革命以降は自ら作り出した有害な環境をも制御し、健康を維持せざるをえなくなっている。現在、地球自身の限界も踏まえた世界的な取り組みも進められている。環境保健学は、環境からの有害影響をその要因から体系的に理解し、対策を検討することを目的としている。環境リスク論をベースに環境保健学を理解し、環境問題とそのマネジメントを俯瞰しつつ、環境からの有害影響別に対策とともに詳しく理解することを狙いとする。また、日本の経験である公害からも学び、公害健康被害補償法、発生者負担原則(PPP原則)や環境基本法と関連法令についても体系的に理解することも狙いとする。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1. 人間の健康と環境の関係、とくに物理的、化学的、生物的有害要因と疾病との関係を理解し、それらへの対策を含めて例を挙げて説明することができる。

【行動目標(SBO)】

1. 米国NRC(全米研究評議会)が提示したリスクアセスメント・リスクマネジメントの手順と各ステップを理解し、環境リスク管理に活用できる。
2. 有害性の特定、曝露評価、量反応関係およびリスク判定の基本的な考え方を理解し、適用できる。
3. リスクコミュニケーション方法について理解し、適用できる。
4. 環境マネジメントシステムを理解し、活用できる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1) レポート(80%)
- (2) 議論への参加(20%)

4. 教科書・テキスト

・原則として講義資料を使用する。

5. 参考書

- ・森澤眞輔. 環境の汚染とヒトの健康—健康のリスクをどう防ぐ—, コロナ社, 2011.
- ・中西準子, 他. 演習 環境リスクを計算する. 岩波書店, 2003.
- ・その他、講義の中で紹介する。

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・森澤眞輔の『環境の汚染とヒトの健康—健康のリスクをどう防ぐ—』を事前に通読し、環境リスク管理の考え方を大まかに理解しておく。
- ・前回までに学んだ環境リスク管理のステップ内容を復習し、当日の講義のキーワードについての予習が望まれる。
- ・当該期間に15時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・レポートに対し、講義の中あるいは個別に解説等のフィードバックを行い、再提出を求める場合がある。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	9/20(水)	1	原 邦夫 教授	環境保健学とは ・環境有害因子と健康／・健康影響メカニズム／基準値／・疫学・毒性学・リスク学との関連
2	9/27(水)	1	原 邦夫 教授	リスク管理の考え方 ・有害性特定・量反応関係評価・曝露評価・リスク判定・リスク管理・リスクコミュニケーション ・1983年の米国科学アカデミー／EPA白書 ・化審法／・良好事例(化学物質管理のCOSHH Essentialsなど)
3	10/4(水)	1	中原 浩彦 講師(非)	有害性の特定 ・物理的・化学的・生物的・社会心理的な危険性・有害性 ・GHS(分類とラベル化)・SDS(ハザード・コミュニケーションツール)
4	10/11(水)	1	原 邦夫 教授	量反応関係評価 ・量反応関係と疫学・動物実験 ・外挿法(Benchmark dose),安全係数,不確実係数,NOAEL,LOAEL
5	10/18(水)	1	中原 浩彦 講師(非)	曝露評価 ・曝露とは何か 環境曝露と職業性ばく露、曝露の評価と測定／・大気汚染、室内汚染／・曝露評価モデル
6	10/25(水)	1	原 邦夫 教授	リスク判定__産業衛生学会・許容濃度委員会 ・リスクの概念／・判定指標／・許容濃度、管理濃度、環境基準など様々な基準
7	11/1(水)	1	原 邦夫 教授	環境疫学 ・環境疫学の基本的事項の解説 ・環境疫学の適用例の紹介
8	11/8(水)	1	原 邦夫 教授	リスクコミュニケーション ・ラベル化とSDS／・ファンシテーター論
9	11/15(水)	1	原 邦夫 教授	一般環境管理論 ・環境影響評価とその課題／・環境法体系、環境基準、排出基準、条例
10	11/22(水)	1	原 邦夫 教授	環境マネジメントシステム ・マネジメントシステムの規格化の流れ／・ISO規格／・環境アセスメント法 ・一般環境管理の実際、排ガス処理・管理__公害管理者／・環境計量士
11	11/29(水)	1	神山 宣彦 講師(非)	化学的有害因子__石綿 I ・戦後の最大規模の労災／・分析から対策まで
12	12/6(水)	1	神山 宣彦 講師(非)	化学的有害因子__石綿 II ・石綿のリスクと対策
13	12/13(水)	1	神山 宣彦 講師(非)	化学的有害因子__石綿 III ・国の豊かさとの関係性
14	12/20(水)	1	宮川 宗之 教授	毒性学 I ・国連GHS文書の分類基準と実際の分類作業の紹介 ・栄養と毒性／・摂取、分布、代謝、排泄；解毒代謝／・PBPKモデル
15	12/27(水)	1	宮川 宗之 教授	毒性学 II ・神経毒性(含発達神経毒性・生殖毒性)の評価(OECDガイダンス文書等に記載された生物試験法・行動試験の紹介)

科目名	産業看護マネジメント論	code number : OEH 241	選択	1 単位
-----	-------------	--------------------------	----	------

科目責任者	福田 吉治 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	夏季(8-9月)	曜日・時限	2日間	授業方法	講義・演習

1. 授業の概要

まず、前半では、産業保健師・看護師の基本的な考え方や役割、職域を対象にしたアセスメントの方法、対策の立案とマネジメントについて主に講義形式にて授業を行う。これらをもとにして、後半では、仮想的な事例を対象にして、グループワーク形式にて、アセスメントを行い、具体的な対策づくりを行う。担当教員を交えたグループ内でのディスカッションおよび全体発表・質疑を行う。

2. 授業の到達目標

【一般目標 (GIO)】

1. 企業における産業保健業務を遂行するにあたって多種多様な能力が要請されることから、産業保健師・看護師として職場の産業保健課題を抽出し、対策案を考え、他職種と合意形成を図り、対策実施をリードし、対策実現ができる能力を獲得する。すなわち、職場の個人の問題を超え、職場や工場あるいは事業場全体の健全性をアセスメントし、対策を検討し、その対策案を実施するための科学的分析能力やコミュニケーション能力およびリーダーシップ・マネジメント能力を獲得する。

【行動目標 (SBO)】

1. 産業保健師・看護師の基本的な考え方、役割等を説明できる。
2. 職場の産業保健の課題を把握(アセスメント)できる。
3. 把握した課題から優先的な課題を抽出し、その対策を立案できる。
4. 対策を効果的に行うために他職種との合意形成をし、対策をマネジメントして実践できる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1) 演習の課題・レポート(50%)
 - (2) 参加態度 (50%)
- 注意) 課題、レポートを再提出または期限に遅れて提出の場合は減点の対象とする。

4. 教科書・テキスト

特に指定しない。必要に応じて配布する。

5. 参考書

・河野啓子監修 『新版 すぐに役立つ産業看護アセスメントツール』 法研

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・各回の授業内容で分からない専門用語があれば、次回までにその意味等を復習して理解しておくこと。
- ・1コマにつき2時間程度の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

産業看護マネジメント論

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	7/22(土)	1	河野 啓子 教授(客)	産業保健における看護職の役割
2	7/22(土)	2	河野 啓子 教授(客)	企業の中でのシステムづくりとマネジメント
3	7/22(土)	3	猪股 久美 講師(非)	職域のアセスメントの方法
4	7/22(土)	4	磨田百合子 講師(非)	ケースを用いたアセスメントの実際
5	7/29(土)	1	福田 吉治 教授 山崎 恭子 教授 河野 啓子 教授(客) 猪股 久美 講師(非) 磨田百合子 講師(非)	職場のアセスメント演習 (情報の取り方)
6	7/29(土)	2		職場のアセスメント演習 (情報の分析)
7	7/29(土)	3		職場のアセスメント演習 (課題の抽出と計画)
8	7/29(土)	4		職場のアセスメント演習 (グループ発表)

M
P
H

科目名	産業精神保健学演習	code number : OEH 301	選択	1 単位
-----	-----------	--------------------------	----	------

科目責任者	福田 吉治 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	夏季(8-9月)	曜日・時限	2日間	授業方法	集中講義

1. 授業の概要

わが国の産業構造が変化した結果、精神的な緊張を伴う業務に従事するものが増えるなど就業の中身も変化し、過重労働による健康障害、特に精神障害の労災認定申請者数は大幅に増加している。本授業では、職場のメンタルヘルス対策として、ストレスチェック等の国の勤める対策ならびに産業ストレスに関する理論を理解したうえで、「職場ドック」等の1次予防、2次予防、復職支援等の3次予防の具体的な方法論を学ぶ。これらを通じて、個々の職場におけるメンタルヘルス対策を進めるための知識、技術、コンピテンシーを習得する。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1.1次予防から3次予防まで、職場においてメンタルヘルス対策が効果的に実践できる知識と能力を習得する。

【行動目標(SBO)】

- 1.職場におけるメンタルヘルスの重要性、メンタルヘルス対策の動向、職場におけるメンタルヘルスの進め方について説明できる。
- 2.職業ストレスに関連した理論やモデルとその現場への応用について説明できる。
- 3.職場のメンタルヘルス対策に対する組織、関係者の役割と連携について説明でき、実際の現場に応用できる。
- 4.職場のメンタルヘルスの1次予防、2次予防、3次予防の方法を説明でき、実際の現場に応用できる。
- 5.ストレスチェック制度を説明し、ストレスチェック後のフォローなどの実務を運用できる。
- 6.具体的な職場を対象に、メンタルヘルス対策の計画・事業の立案ができる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1) 演習の課題・レポート(50%)
 - (2) 参加態度 (50%)
- 注意) 課題、レポートを再提出または期限に遅れて提出の場合は減点の対象とする。

4. 教科書・テキスト

・原則として講義資料を使用する。

5. 参考書

・中央災害防止協会. 労働衛生のしおり

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・関連する事業場等のメンタルヘルス対策について事前に調べておくこと。
- ・1コマにつき2時間程度の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

産業精神保健学演習

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	8/16(水)	1	福田 吉治 教授	職場のメンタルヘルス対策の現状と国の取組
2	8/16(水)	2	北村 尚人 講師(非)	職場におけるメンタルヘルス不調者への対応
3	8/16(水)	3	磨田百合子 講師(非)	職場のメンタルヘルス対策における保健師の役割/復職支援の実際
4	8/16(水)	4	高辻(戸谷) 由布子 講師(非)	過労死, メンタルヘルス不調者等に関連した訴訟および対処方法
5	8/30(水)	1	福田 吉治 教授	産業ストレスの理論と応用
6	8/30(水)	2	吉川 悦子 講師(非) 竹内由利子 講師(非)	職場ドックの解説・実施方法
7	8/30(水)	3	吉川 悦子 講師(非) 竹内由利子 講師(非)	職場ドックの適用演習1:グループワーク
8	8/30(水)	4	福田 吉治 教授 吉川 悦子 講師(非) 竹内由利子 講師(非)	職場ドックの適用演習2:グループワークのまとめ、発表、質疑科目全体のまとめ

科目名	産業環境保健学実習	code number : OEH 351	選択	1 単位
-----	-----------	--------------------------	----	------

科目責任者	原 邦夫 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	夏季(8-9月)	曜日・時限	(個別設定)	授業方法	実習

1. 授業の概要

4日間を実習日とする。
 初日の午前、「職場巡視」とは何か、「安全衛生委員会」とは何か、「職場巡視」における事前準備、当日の視点およびツールの利用方法の講義を行う。
 初日の午後、第2日目、第3日目にいくつかの職場を対象として「職場巡視」を行う。
 最終日の第4日目は、午前中に職場巡視を行った職場ごとにグループの意見をまとめ、模擬安全衛生委員会で各職場での課題に対する対策を決定する。午後に、職場巡視を行った職場ごとで、職場巡視対象職場に対するレポートをまとめ、総合討論を行う。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1. 産業環境保健学概論の講義で学んだ成果を活かす場として実際の現場を巡視し、環境を評価・改善するための視点を獲得し、実践力を磨き、現場の問題解決のための提案ができる。

【行動目標(SBO)】

1. 「職場巡視」の事前準備ができて、当日の視点を説明できる。
2. 「職場巡視」で現場の問題点を発見し問題解決の対策を考えられる。
3. 「安全衛生委員会」を理解し、運営することができる。
4. 「職場巡視」対象職場に対策提言ができる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1) レポート(60%)
- (2) 発表(30%)
- (3) 実習中の主体的学習態度(10%)

4. 教科書・テキスト

・原則として講義資料を使用する。

5. 参考書

・中央労働災害防止協会. 労働衛生のしおり、中央労働災害防止協会. 2017.

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・中央労働災害防止協会の『労働衛生のしおり』の作業環境管理の章を事前に読んでおく。
- ・安全衛生委員会や職場巡視などの実習時に必要な組織や方法について理解しておく。
- ・当該期間に8時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・レポートに対し、講義の中あるいは個別に解説等のフィードバックを行い、再提出を求める場合がある。
- ・最終レポートは実習先に提出することを予定していることを踏まえてまとめる。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	8/7(月)	1	原 邦夫 教授 高橋 謙造 准教授	職場の有害要因と健康障害およびその対策案／職場巡視と安全衛生委員会
2	8/7(月)	2	福田 吉治 教授 高橋 謙造 准教授	ケースに基づく模擬安全衛生委員会A
3	8/7(月)	3	高橋 謙造 准教授 矢野 榮二 教授	職場巡視A
4	8/7(月)	4	高橋 謙造 准教授 矢野 榮二 教授	職場巡視A
5	8/8(火)	1	福田 吉治 教授	A職場についての模擬安全衛生委員会
6	8/8(火)	2	福田 吉治 教授	A職場についての模擬安全衛生委員会
7	8/8(火)	3	原 邦夫 教授	全体討論
8	8/8(火)	4	原 邦夫 教授	A職場についてのまとめ
9	8/17(木)	1	原 邦夫 教授	職場の有害因子と健康障害およびその対策案／職場巡視と安全衛生委員会
10	8/17(木)	2	福田 吉治 教授	ケースに基づく模擬安全衛生委員会B
11	8/17(木)	3	谷原 真一 教授	職場巡視B
12	8/17(木)	4	谷原 真一 教授	職場巡視B
13	8/18(金)	1	福田 吉治 教授	B職場についての模擬安全衛生委員会
14	8/18(金)	2	福田 吉治 教授	B職場についての模擬安全衛生委員会
15	8/18(金)	3	原 邦夫 教授	全体討論
16	8/18(金)	4	原 邦夫 教授	B職場についてのまとめ

科目名	特別講義(産業環境保健学Ⅰ～Ⅲ) ^(※)	code number : OEH 401～403 ^(※)	選択	1 単位
-----	---------------------------------	---	----	------

科目責任者	Rose Goldman 客員教授 ^(※)						
配当年次	1・2年次	配当学期	冬季(1-2月)	曜日・時限	4日間	授業方法	集中講義

1. 授業の概要

エネルギー消費量の増大により地球温暖化が進むなど、ヒトの健康への環境の影響が大きくなっている。環境保健の基本的コースとして、毒性学、曝露評価、環境疫学、リスクアセスメント・リスクマネジメント、環境影響予測評価、ライフサイクルアセスメント、および災害分析を理解し、大気汚染、飲料水、産業有害要因、労働災害、建造環境、エネルギーの選択、および地球温暖化などの課題について、評価し政策決定できることを目指す。

事前に教科書の関連する章を読む予習を前提に、ケースを用いてグループ討論をする。また、参加者自身の国および居住地域の環境相互関係や、他の要因(年齢、不均等な有害要因ばく露、社会経済的な要因、たばこ煙など)の修飾影響について理解を促す。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1. 環境保健の基本的な考え方および方法を学び、その考え方や方法を実際の環境問題に適用できる。

【行動目標(SBO)】

1. 環境有害要因のヒトの健康への影響を理解し、説明できる。

2. 環境保健の基礎として毒性学、曝露評価、環境疫学、リスクアセスメント・リスクマネジメント、環境影響予測評価、ライフサイクルアセスメント、および災害分析を理解し、説明できる。

3. 大気汚染、飲料水、産業有害要因、労働災害、建造環境、エネルギーの選択、および地球温暖化などの課題に対して対策案を検討できる。

4. 環境有害要因によるヒトへの健康有害影響に対する、年齢、不均等な有害要因ばく露、社会経済的な要因、たばこ煙などの修飾要因の影響を評価できる。

3. 成績評価の方法および基準

最終試験の点数で評価し、60%以上を合格とするが、グループ討議・発表等への積極的参加で10%程度加算する。

4. 教科書・テキスト

・Occupational and Environmental Health: Recognizing and Preventing Disease and Injury; sixth edition, Barry S. Levy, David H. Wegman, Sherry L. Baron, and Rosemary K. Sokas. Oxford University Press, 2011.

5. 参考書

・関連する読むべき資料を専用ホームページに掲載する。

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

・事前にテキスト「Frumkin H, Editor. Environmental Health: From Global to Local. San Francisco: Jossey-Bass, 2016」や、専用HP上に公開される講義用資料を授業前に読んでおく。

・当日の講義内容に関連するキーワードの概念を理解して講義に臨む。

・当該期間に8時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

・各回終了後には、日本人教員による補講が行われる。

・積極的なグループ討論への参加を求める。

・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。

・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

(※)年度により開講内容が異なる場合があり、Ⅰ～Ⅲのいずれかを開講する。

(※)担当教員については変更となる場合があるが、その場合は記載がある予定教員と同等レベルの教員が任命される。

(※)また、具体的な授業日時、授業内容については毎年9月-10月頃に設定され、決まり次第学生に対して通知する。

<授業計画>

特別講義(産業環境保健学Ⅰ～Ⅲ)(※)

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	1/25(木)	1	Rose Goldman 教授(客)	環境保健学入門(ケース1:妊婦はツナ缶を食べるべきか?)
2	1/25(木)	2	Rose Goldman 教授(客)	中毒学(基本的な中毒学、ケース2:妊婦はツナ缶を食べるべきか?(継続))
3	1/26(金)	1	Rose Goldman 教授(客)	環境疫学と大気汚染(ケース3:各地のPM2.5濃度と死亡率への影響、その発生源および対策)
4	1/26(金)	2	Rose Goldman 教授(客)	リスクアセスメントと政策決定(ケース4:妊婦はツナ缶を食べるべきか?水銀の影響と魚摂取の効果(継続))
5	1/27(土)	1	Rose Goldman 教授(客)	産業保健:災害防止(ケース5:Haddon Matrixを用いた災害分析)
6	1/27(土)	2	Rose Goldman 教授(客)	水と衛生(ケース6:飲料水と健康—バングラデッシュの経験)
7	1/28(日)	1	Rose Goldman 教授(客)	建造環境とエネルギー選択(ケース7:エネルギー選択のためのライフサイクルアセスメントと健康影響予測評価アプローチ、エコロジカル・フットプリント)
8	1/28(日)	2	Rose Goldman 教授(客)	地球温暖化(ケース8:地球温暖化と健康)